

間伐材・廃材を活用した バリアフリー対応 床暖房木製畳床

企業 / (株)日之出工業

研究者 / 村田明宏（岐阜県生活技術研究所専門研究員）



床暖房木製畳床

畳は日本の四季折々の気象条件をベースに、先人の生活の知恵から室内の湿気をコントロールする健康的でしかもナチュラルな素晴らしい敷物として今日1000年の歴史を誇り、日本の代表的文化を育み育まれながら営々と今に伝えています。「藁」という素晴らしい材料に着目し、藁床が大旋風を起こし今日に至っています。又発泡スチロール等の建材畳床が、コストダウンを狙った畳床として現在主流をなしています。藁床は防虫紙、時にダニ駆除の薬剤が散布され、個人差はあるものの、薬剤が人体に全くよくない事は明白です。発泡スチロール等建材畳床も環境ホルモンが人体、生き物に対して直接影響がある事は昨今のニュース等で承知の事と思います。どんな物でも必ず最後の廃棄処分の日が来ますが、これでは全然地球に優しいとは言えません。木製畳床は幸い市場ニーズ、ユーザー思考、時流も、環境、健康に整合している事を確信しました。市場参入にはグッドタイミングです。健康的な敷物として自然素材が、安心安全快適な居住空間をご提案します。環境への取組の一つに、森林の世界的公益機能を重視し、殆どの林分が間伐時期をすでに逸している現状にあり、加えて外材の輸入によって国産材材価の低迷を生み日本の林業を非常に厳しく、山林を放棄した状況に追いやりました。山は緑でも機能を失った“森林砂漠化”され、かかる状況下において、少しでも山に手が入るよう、資源の有効活用と自然環境保全を図れる商品化に漕ぎつけました。畳として一番大切な機能、吸放湿性は「藁」より優れ、建材床の比ではありません。栓ですと、部屋に居ながら森林浴、抗菌、ダニの忌避効果、通気性、ほどよいクッション性、サラッとした肌触りと、心地よい感触と温かみは絶品です。